

平成20年度局配分枠予算について

総務局

1 局配分枠予算編成に当たっての考え方

総務局配分枠予算は、97%が人件費、残る3%が物件費という構成になっている。
人件費については、職員定数を基に、必要額を精査したうえで予算編成を行った。
物件費については、総務局予算の多くを占める内部管理及び維持管理的な経費に対し、これまで以上に精査を行い、経費の節減に努めた一方で、「京都市基本計画第2次推進プラン」、「京都市市政改革実行プラン」、「京都市財政健全化プラン」等における取組項目を着実に推進できるよう、限られた財源の中で効率的な予算の編成に努めた。

2 局配分枠予算における主な新規・充実事業

<新規事業>

【当初予算計上】

パリ市との友情盟約締結50周年事業	6,983千円
第11回世界歴史都市会議への代表団派遣	23,169千円

【肉付補正予算計上】

公民協働の推進	203千円
国際都市・京都の世界発信	10,000千円
芸術大学のあり方検討	4,297千円
芸術大学芸術資料館企画展の学外実施	1,000千円
芸術大学教員能力向上対策	1,000千円

<充実事業>

【当初予算計上】

職員提案制度	全体事業費2,016千円（うち充実分800千円）
京都市政史第1巻「市政の形成（叙述編）」の刊行	全体事業費16,307千円（うち充実分7,150千円）